

活動報告書

認定特定非営利活動法人フードバンク関西





CONTENTS

●こども食堂支援プロジェクト活動報告書

p2-9

- I. 子ども食堂支援プロジェクトのはじまり
- Ⅱ . 子ども食堂への食材の提供
- Ⅲ. フードバンク事業の拡充
- Ⅳ. 子ども食堂をサポートするしくみづくり
- V. 兵庫こども食堂ネットワーク
- VI. 企業などの支援と子ども食堂のマッチング
- WI. こども食堂シンポジウムの開催
- Ⅷ. 兵庫こども食堂ネットワークの今後に向けて
- IX.まとめ

1. 子ども食堂支援プロジェクトのはじまり

子どもの貧困問題と東京での子ども食堂

子どもの貧困率 16.3% (2012 年) というショッキングな数字が発表され、放置できない問題として社会の関心を集めました。フードバンク関西が取り扱う食品を子ども支援に有効活用できないかと考えていたところ、東京を中心に、自宅や寺などで近所の主婦たちや高齢者が食事を作り、無料または安価な値段で提供し、子どもだけで行ける「子ども食堂」が話題となり始めました。一人親世帯、共働きの世帯の増加による孤食の子どもたちが増え、家庭での生活習慣や体験を積む機会が失われている現状が背景にあります。「家庭でできないことは地域ですればよい」という考えに共鳴する人たちが次々と子ども食堂を立ち上げていきつつありました。そこで当法人でも子ども食堂を支援しようと、

子ども食堂支援プロジェクトを立ち上げました。 ジョンソン・エンド・ジョンソン社会貢献委員会に 助成金を申請し、2016年4月より3年間、活動を助 成していただけることになり、法人内に「子ども食 堂チーム」を発足させ、取り組みを開始しました。

プロジェクトの概要~3つの柱

- 1. フードバンク事業で集めた食品を子ども食堂に提供し、食材調達の面で下支えする。
- 2. 子ども食堂に需要の高い食品を提供できるようフードバンク事業を拡充する。
- 3. 子ども食堂の普及と運営の安定的な継続をサポートするしくみを作る。

||. 子ども食堂への食材の提供

第1号は「にしなり☆こども食堂」

関西では子ども食堂の取り組みがまだ少なく、情報収集に努めている中、にしなりこども食堂の川辺さんが食材提供を求めて当法人事務所に来られました。その後、次第に子ども食堂の開設が相次ぎ、その情報を得たところへ子ども食堂チームが聞き取り調査に出向き、聞き取り調査で当法人からの食材提供希望の有無も聞き、食材提供にもつなげました。

① 定期的に食品を提供している子ども食堂数

2017年3月まで82018年3月まで132019年3月まで18

自己調達が可能になり、提供を休止したところ=2件

② 食品提供にあたっての基準

・月2回以上の開催

子ども食堂の運営がうまくいくためには、地元の 支援を得ることが欠かせません。食材に関しても基 本的には、支援者を募り調達できるようになるのが 理想です。しかし、開催頻度が多くなるとそれも難 しく、フードバンクの支援が必要と考え、この基準 を設けました。

・「食品の受取りに関する合意書」の締結と視察

当法人の受取り団体と同等に扱い、当法人が扱う 食品について、品質、衛生管理等の責任の所在を明確にし、互いに遵守すべきことを書面にした合意書 の交換をします。合意書交換後、調理設備、食品保 管設備が整っているか、視察をして確かめます。

*合意書 当法人から提供する食品の保管、活用について、 責任の所在と事故発生時の対応等について明確にするため に交わす書面

Ⅲ. フードバンク事業の拡充

子ども食堂に需要の高い食材の確保が課題

① 子ども食堂に提供している食品

調味料、乾物、缶詰類、飲料、菓子などの常温品と素材となる冷凍の肉、魚を人数に応じて準備し、月1回提供しています。特に、たんぱく源となる冷凍肉、魚は需要が高いですが、フードバンク事業で最も入手しにくい食材でもあります。幸い、おおさかパルコープが3週間に1度の頻度で、個配で返品交換に備えて余分に用意したが使わなかった食品(常温品、冷蔵品、冷凍品)を当法人に提供してくださっており、その中から冷凍肉、魚を優先的に子ども食堂に提供しています。

② 食品提供企業の開拓

企業交渉チームを立ち上げ、兵庫県や関西経済同 友会などとつながりを持ち、情報の収集や取次をし ていただき、提供企業の開拓に努めました。

新規食品提供企業

2016年4月~2017年3月 9社 2017年4月~2018年3月 3社 2018年4月~2019年3月 15社

なかでも、形が悪かったり小さかったりで出荷できないこだわりのトマトや卵を提供してくださるところとつながることができたのはとてもありがたいことでした。

③ フードドライブの普及

神戸市が家庭からの食品ロス削減を進めるために、量販店と協働しフードドライブを促進する取り組みを開始、コープこうべ、各自治体、社協でもフードドライブを実施し、取り組みが広がりました。当法人に寄付されたそれらの食品は、子ども食堂にも提供されてバラエティ豊かになりました。

④ 不定期での食品の提供

定期的な食品の提供以外に、一度に大量に当法人 に寄付された食品があった場合など、後に記述する こども食堂ネットワークのグループメールで情報を 流し、希望するところに取りに来てもらう形で食品 を提供しました。

例) 播磨社会復帰促進機構 ジャガイモ、玉ねぎ アサヒ飲料(セカンドハーベスト経由)飲料 東洋アルミエコープロダクツ 紙皿

Ⅳ. 子ども食堂をサポートするしくみづくり

子ども食堂を知るための現場視察 ~聞き取り調査

聞き取り調査実施件数

2016年4月~2017年3月 2017年4月~2018年3月 10件 2018年4月~2019年3月

聞き取り調査で多くの子ども食堂運営者と話をする うちに、子ども食堂の実態が明らかになり、子ども 食堂と言っても、開催頻度も参加人数も対象者も 様々、運営主体も色々だということがわかりました。 また、多くの運営者と話をすることにより、当法人 に情報が集まるようになりました。これがネット ワーク作りにつながっていきます。

聞き取り調査項目

- ・運営主体、開設場所、開催頻度、曜日、時間
- 対象、参加人数、利用料
- ・運営体制(事務、会計、食材調達、調理などに携わる人)
- ・食材調達方法、地域での支援者、団体
- ・フードバンク関西からの食支援の希望の有無
- ・現状や課題など

子ども食堂の開設を促すために 〜地域の状況把握、意識調査

プロジェクト開始当初、「子ども食堂」=貧困対策というイメージがありました。関西で開設例がほとんどない中、子ども食堂をより必要としている地域を見出し、立ち上げ可能な団体とつながり、立ち上げを支援していこうと考え、近隣の市において、地域で子ども支援の活動をしている団体や人を対象に、地域の状況把握、意識調査のアンケートを2016年7月から9月にかけて実施しました。これは、誰でも参加できるという今の子ども食堂の在り方とは違いますが、このアンケートの回答から、当時の一般の人たちの子ども食堂に対する認識のほどがよくわかる結果になっています。また、子どもの貧困は見えにくいということも確認できました。

主な意見

- ・自分の地域に貧困世帯の子がいるかどうかわからない。
- 子ども食堂があればよいとは思う。
- 食育にもなる。
- ・家庭での団らんの機会が失われる。
- ・担い手の負担が大きい。

質問項目および結果の詳細は 16~17ページ参照

子ども食堂についての認識を深め、 他団体とのつながり作りのための セミナーや情報交換会への参加

子ども食堂チームが積極的に動き、子ども食堂の 状況や各地域の取り組みなどの情報を収集すると同 時に、他団体とのつながりを作るため、多くの会に 参加しました。

2016年度 9回

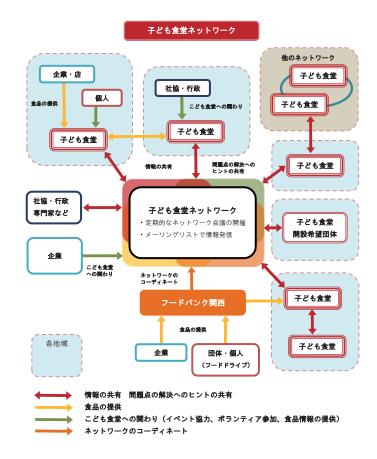
2017年度 11回

2018 年度 10 回

「兵庫こども食堂ネットワーク」 立ち上げ

聞き取り調査から、運営者は日々試行錯誤で活動していて、情報の共有や課題を話し合える横のつながりを求めていることがわかりました。また、積極的に参加したセミナーなどから、支援者と運営側をつなぐマッチング機能を担うところが必要だと感じるようになり、当法人が事務局を担当することで「兵庫こども食堂ネットワーク」立ち上げ、2017年2月21日第1回ネットワーク会議を開催しました。当初は加入団体35団体でのスタートでした。

(ネットワーク概念図)



V. 兵庫こども食堂ネットワーク

ネットワーク会議

概ね3か月に1回の頻度で、加入団体が顔を合わせ、情報やノウハウの共有、現状や課題について話し合いをします。他を知ることで互いに刺激し合い、活動に生かす機会となっています。また、専門の講師を招いての研修会も行い、質の向上に努めています。

(2017年)

第1回

2月21日

木口記念会館

26 団体 (7 名)

- ・設立の会
- ・グループメールについて
- ・名称の決定

第2回

5月29日

芦屋市保健福祉センター

25 団体 (4名)

- ・保険についての情報提供
- フードバンクからの食品提供について
- 開設にあたってのアドバイス

第3回

9月15日

芦屋市保健福祉センター

18 団体 (10 名)

・「子どもたちにとっての居場所」「外部から支援 を得るコツ」について意見交換

第4回

11月15日

芦屋市保健福祉センター

17 団体 (9 名)

- ・事務局からの情報提供
- ・グループトーク

「地域との連携」「広報の仕方」

「子どもとの接し方」

(2018年)

第5回

2月26日

芦屋市保健福祉センター

22 団体(12 名)

講演会 神戸市立六甲道児童館館長 金坂尚人氏 『子どもの居場所としての子ども食堂~子どもたちとその親を受け入れるために』

第6回

5月15日

芦屋市保健福祉センター

18 団体 (15 名)

- ・ネットワーク評価アンケート結果について
- ・会則作成について
- ・保険についての情報交換
- ・食中毒防止の取り組みについて

第7回

9月19日

木口記念会館

20 団体 (9 名)

- ・会則、役員選出について
- ・企業の子ども食堂支援について
- 地区ごとにグループトーク

第8回

11月20日

木口記念会館

20 団体 (11 名)

・講習会 ㈱トーホーサービス 山本和実氏「ノロウィルス予防と対策」

・グループトーク

「子ども食堂に携わって大人、地域がどう変わったか」 進行、まとめ:神戸大学大学院 津田ゼミ、

あーち子ども食堂

* () はオブザーバー参加の企業や行政担当者等の 人数

グループメールでの情報発信

日常的に随時、事務局より一斉送信してお知らせ

- ・ネットワーク会議の案内、議事録周知
- ・新メンバー加入のお知らせ
- ・助成金等の情報
- ・他地域や他団体のセミナー、情報交換会等の案内
- ・県からの情報、厚労省通達の周知など行政からの情報周知
- ・加入団体のイベント、講習会の案内
- ・フードバンク関西からの食品の提供等の情報

フェイスブックページの作成

一般の方々へ子ども食堂について知ってもらい、活動への共感者を増やすためにフェイスブックで情報発信するようになりました。ネットワーク会議の様子や、各子ども食堂の様子をアップすることによって閲覧者数も増加しました。フォロワーは160人ほどです。今後はホームページの作成を検討していきます。

ネットワークの評価アンケート

立ち上げから1年が経過したところで、加入団体に対してネットワークに何を期待して入会し、どう変わったか、今後何を期待するかについて問うアンケートを実施しました。

結果の概要 (詳細は 18 ~ 20 ページ参照)

方法:質問紙を郵送、回収

発送数:44件 回答数:29件

・ネットワークに加入した理由(主なもの)フードバンクや他からの食材の情報が得られる 横のつながりを作りたい

困っていることを話し合いたい

・加入の満足度は、ほとんどが満足またはほぼ満足 (ただし、回答未提出のところが多いので考慮が必要) 理由として、つながりがもてる、情報が得られて活 動に生かせるなど。

変化があったか

変化ありは62%

情報を得たり、他の様子を知ることでモチベーションが上がり、活動が広がっている。ネットワーク会議に参加できていないところは変化なし、評価できないとしている。

・今後に期待すること

情報交換の場の提供事例に対応できる勉強会の開催 テーマを決めて話し合いを深める

交流と連携

・課題

地理的なことなどからネットワーク会議に参加しにくい。 様々形態があるなかで、話し合いがまとまりにくい。

これらを今後のネットワーク運営を考える上で役立てていきます。

VI 企業などの支援と子ども食堂のマッチング

子ども食堂と企業とのマッチング

・元町マルシェ

棚から下す野菜を近隣数か所の子ども食堂が引き取る。

・ダイエー

本部 CSR を通じて「幸せの黄色いレシートキャンペーン」 支援先団体への登録あっせん。

東洋アルミエコープロダクツ

余剰となった紙皿を提供

社員の社会貢献プログラムとして子ども食堂でのボラン ティア体験の企画 (実現にはいたっていない)

・神戸物産

月1回、1か所の子ども食堂とコラボして、食材やメニュー、ボランティアを提供し、子ども食堂を共催する取り組みを開始・コープこうべ

各店舗から直接、最寄りの子ども食堂に販売期限切れ食品を提供するシステムを始動。ボランティア活動グループとして登録することで、子ども食堂の会場として組合員集会室の利用や備品の利用、保険への加入など、拠点づくり事業の中で子ども食堂支援をしている。

・ネスレ日本

こども食堂で、自社開発の食育プログラム実施を準備中

VII. こども食堂シンポジウムの開催

子ども食堂の実際の様子をより多くの人に知って もらい、子ども食堂のもつ可能性に共感する人を増 やし、支援の輪を広げることを目的に、3年間のプ ロジェクトの総括と今後の子ども食堂ネットワーク の在り方を検討するシンポジウムを開催しました。 同時に、寄付で集めた食品を使って作った料理を試 食する「子ども食堂版 0 円キッチン」も開催しました。 持ち寄った食材で美味しい料理ができることを感じ ていただけたと思います。

開催日時および場所

2019年2月26日(火)

第 1 部 12 時 ~ 13 時 15 分

12 時~ 13 時 15 万

木口記念会館多目的室

第 2 部 13 時 30 分 ~ 16 時 30 分

芦屋市保健福祉センター多目的ホール

第1部 子ども食堂版0円キッチン

調理協力 3 つの子ども食堂スタッフ 16 名 食材提供 コープこうべ、コープ自然派兵庫 神戸物産、ながの食品、その他フードバンク関西 への寄贈食品

試食参加人数 95 人

参加者の感想

- ・メニューの多さに驚いた。
- ・やさしい味付けでおいしかった。
- 工夫がすばらしい。

第2部4つのタイプの異なる子ども食堂活動紹介

- ・「つながり食堂」神戸市東灘区
- ・「晴れるや」 尼崎市
- ・「みなっち子ども食堂」 神戸市須磨区
- ・「こどもワクワク食堂」神戸市兵庫区
- パネルディスカッション

<u>パネラー</u> 子ども食堂運営者、子ども食堂支援者(企業、財団)、ネットワーク事務局

<u>コーディネーター</u>

NPO 法人しゃらく 小嶋新氏

子ども食堂を始めたきっかけ、支援を始めたいきさつ、 支援に至るまでの課題、地域での子ども食堂の効果、 ネットワークの必要性、望まれる姿など意見交換 参加人数 約 120 人 (スタッフ含む)

参加者の感想

がほとんどでした。

- ・子ども食堂運営側、支援する側両方の率直な意見を聞 くことができてよかった。
- ・地域のゆるいつながりを作りたいというのが印象に 残った。
- ・支援する企業や団体を増やし、多業種から支援を集められるようになると子ども食堂の継続につながる。 第1部、第2部ともに参加者の評価は「とてもよかった」

VIII. 兵庫こども食堂ネットワークの今後に向けて

組織、体制づくり

ネットワークを通じてより多くの支援を得るため、ネットワーク自体の信頼を高める必要があると考えます。そのために、2018 年秋から、加入団体とともに組織づくりの協議を開始し、会の目的、体制を記載した会則を作成し、子ども食堂運営者から代表、副代表を選出しました。会則(22ページ参照)これにより、ネットワークとして助成金申請や保険の団体加入取りまとめ等が可能になると思われ、子ども食堂への支援の幅が広がることが期待できます。

子ども食堂について多くの人に 知ってもらう広報

企業や一般の人々からの支援を得るためには、子ども食堂が、地域のつながりを再構築し、子どもたちが地域で健全に育っていくことにつながる意義のある活動であることを知らせていくことが必要です。その役割をホームページやSNS、イベント開催などでの情報発信を通じて担っていければと思います。

加入子ども食堂の運営力向上

社会から認められるには、子ども食堂が信頼される運営をしなければいけません。衛生管理や危機管理をしっかりするよう、研修や勉強会などの開催でサポートしていくのも役割の一つと考えます。

全国ネットワーク(中間支援組織) とのつなぎ

子ども食堂の中間支援組織の重要性が高まる中、各地でネットワークができています。それらを統合する全国組織とつながり、情報提供やマッチングを行っていきます。

地域ごとのネットワーク化の推進

兵庫県の南部地域に限定しているとはいえ、やはり 子ども食堂間で食材の行き来や頻繁な顔合わせは難し いです。子ども食堂は地域との連携が欠かせません。 市や区単位でネットワークができれば、その地域の資源の活用や学校、自治体との連携も強化できます。アウトリーチにも対応がしやすいです。各地域でのネットワーク推進には、各地の社会福祉協議会の役割が大きいと思います。そのために社協との情報交換、連携を進める必要があると考えます。地域のネットワークのネットワークとして兵庫こども食堂ネットワークが存在し(重層的なネットワーク)、地域間の情報交換や課題解決に向けての連携を図る役割を担っていければと考えています。

アウトリーチへの対応

子ども食堂のアウトリーチ機能を生かして、アプローチのできた支援の必要な世帯に対して、子ども食堂を通じてフードバンク関西から食糧を提供し、食支援を行うことができます。現在、3か所の子ども食堂でこの形での食支援ができていますが、このしくみを拡大していきます。

フードバンク関西が事務局を担う ことのメリットと課題

- メリット
- ・食材確保の面での下支えが可能
- ・関連企業とのマッチングが期待できる
- ・アウトリーチに対して、世帯への直接の食支援が可能。 将来的なパントリー開設も検討可能
- ・NPO なので、行政のようなしばりがなく、自由な発想を 取り込むことが可能

課題

- ・社協、行政が担う場合に比べて、一般の人への認知度 や社会的信頼が低い。
- ・専従職員を配置できない。

IX. まとめ

子ども食堂の存在価値

子ども食堂は当初の予想以上に広がり、全国で3000件余りあるともいわれています。その形態は多様ですが、ほとんどが貧困の子だけを対象としたものではない共生型であり、子どもの貧困解決に即効性はないかもしれませんが、地域がゆるくつながり、できる人ができることをしていく新しい共助の形を作るツールになる可能性があると思われます。それによって子どもの支え手が増えていくことが期待できます。どの子も容易にアクセスできるところに子ども食堂があることが必要であり、小学校区に一つを目標に、まだまだ広めることが必要です。

フードバンクと子ども食堂

子ども食堂は食材調達においても地元で賄えるの があるべき形ですが、開催回数の増加、参加人数の 増加、地域性により食材の調達が困難なところも多 いのが現状です。フードバンクからの食材の提供は 食堂の基本である食材調達の不安を軽減することに 少なからず貢献しています。また、子ども食堂のア ウトリーチ機能により見えてきた貧困世帯に対し て、フードバンクからの食品を子ども食堂を通じて 個別に提供することもでき、支援の一つのツールと なります。さらには、子ども食堂でのパントリー開 催へと発展できる可能性もあります。今後、たんぱ く源となる食品など需要の高い食品の提供企業開拓 と、余剰食品ではなく正規品の提供など、子ども食 堂を支援する企業を増やしていくよう働きかけが必 要です。フードバンク事業を通じてこのような働き かけを進めていくことにより、ネットワークの機能 強化につなげていけると考えます。

ネットワークを通じた子ども食堂 支援

ネットワーク評価アンケートでもわかるように、 ネットワークは、情報提供、交流の場を提供し、運 営者にとって有益なものであるとわかりました。昨 今、ネットワークの重要性が認識され、各地で中間 支援組織の設立が相次いでいます。日々の活動の連 携は市や区単位の小さなネットワークにゆだねつ つ、兵庫こども食堂ネットワークは、中規模のネットワークとして、子ども食堂に支援を集める広報、 情報提供、全国ネットワークとのつなぎの役割、多 種多様な人たちをネットワークに組み入れ、支援の 輪を広げていく役割が期待されます。今後も当法人 は、フードバンク事業に携わる強みをネットワーク の子ども食堂支援機能の充実に生かし、子ども食堂 の発展に寄与してまいります。



●子ども食堂支援プロジェクト活動写真

p11

●参考資料

p16

- 1. 地域での子ども食堂ニーズ調査
- 2. 兵庫こども食堂ネットワーク1年目のアンケート
- 3. 兵庫こども食堂ネットワーク 会則

子ども食堂シンポジウム実施風景















子ども食堂の様子

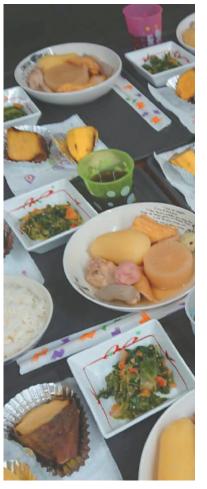


















地域での子ども食堂ニーズ調査

1. 調査地域と回答数



2. 地域で夕食を一人で食べる子は多いと感じるか

孤食の子どもは地域に多いと感じるか

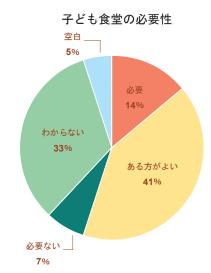


3. 子ども食堂が開設されたら利用する子は多いと思うか

地域で子ども食堂を利用すると思われる



子ども食堂の必要性を感じているか



4. 自由記述から主な意見

子ども食堂に肯定的な意見

- ・ニュースで知って、たいへん良い活動だと思った。
- ・共働きが増えているので助かる。親子で利用できる と、仕事で疲れている母親にとっても助かると思う。
- ・地域のつながりができ、SOS が出せる場所になればよい。
- ・子どもの居場所として重要。居場所のない子供た ちを発掘できる場所にもなる。
- ・地域で一人親世帯、共働き世帯が増えて、夕食を 一人で食べる子が増えている。給食が唯一の食 事という子がいることも聞く。無料または低価 格で食事を提供し子どもの成長を見守る、地域 のネットワークの拠点となる子ども食堂は必要。
- ・食を通して、感謝の気持ち、優しい気持ちが育っ てくれればよいと思う。
- ・これから先は、地域やグループで会食してコミュニケーションをとっていく必要があるかもしれない。
- ・神戸市は小規模児童館の多い地域。金銭的には 豊かでも貧困が増えている。沖縄では児童館を基 点として子ども食堂を開設する動きがあるが、 兵庫の形を模索していきたい。

- ・困窮する家庭が多い地域なので、子ども食堂があ れば助かると思う。
- ・子どもの食事に関心のない親が増えていて、長期 休暇の間の食事が心配。
- ・地域で子どもたちを育てるような場をつくりたい。
- ・地域で独居老人も増えているので、子どもたちと 一緒に食事ができればよい。老人食堂があればよい。
- ・これからは働く母親が増えてくるので、子どもが 安心して一食食べられるのは助かると思う。サロンになってもよいのでは。
- ・近くにあれば手伝いたい。
- ・子ども達を見ているよという見守りになる。
- ・必要な活動だと思うので、公的機関の資金投入で 活動が広がればよいと思う。
- ・情報が少なく、わからないことが多いので、参加の きっかけがない人がたくさんいると思う。もっとた くさんの人に子ども食堂を知ってほしい。知ってい れば必要な保護者に伝えられたかも。
- ・子ども食堂が、子ども達の居場所になり、信頼できる大人との出会いや交流の場として、子ども達の心身の安定や発達に良い効果を上げているとのこと、すばらしいと思います。
- ・子どもは地域で支える必要性が大きくなってきて いると思います。
- ・これからの時代にあった子どもと地域をつなぐよい 形態だと思う。
- ・食事を一緒にするとうことは、子どもたちの心身 の発達に意義がある。
- ・夕食だけでなく、朝食も必要。

子ども食堂の取り組みに懐疑的な意見

- ・必要だとは思うが、食材の調達、管理など専門的 な知識もいるので、運営がたいへん。
- ・自分の地域はニーズが少ないと思うが、必要なところ に開設されればよいと思う。
- ・お金の問題、人、場所がクリアされればよいと思う。
- ・本来の目的に沿った運営をしていくのは大変。

- ・親が作った食事を食べることも大切。楽だからと、 安易に利用する家庭が増えるのはどうかと思う。 依存症にならない対策を。
- ・アレルギーの子への対策が問題。
- ・経済的に豊かな地域なので、自分の地域では利用 する子は少ないと思う。
- ・必要だと思うが、スタッフの質の向上などたいへん。
- ・支援が必要な子にどうしたら伝わるか難しいと思う。
- ・どの地域でも少なからず支援を必要としている子 がいるが、自分たちが何ができるか難しい。
- ・安易な利用が増えれば、子どもにとって大切なも のが脅かされかねない。親子で囲む食卓を子ども たちから奪うことにならないか。
- ・本当に困っている子の利用が少ないと聞いた。困って いる子が広く利用できる場になればよいと思う。
- ・まず子どもの食の実態調査をする必要がある。

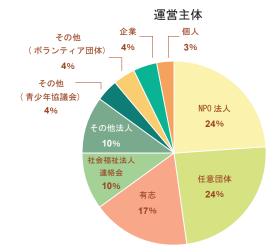
その他

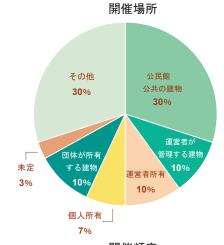
- ・現在、開設しているが、人がいなくてこれ以上回数を 増やせない。
- ・子ども達への食育も大切。

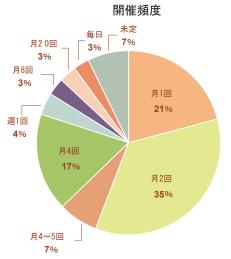
兵庫こども食堂ネットワーク 1年目の評価アンケート

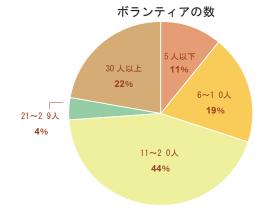
44 団体に調査書郵送による。回答数 29 アンケート実施時期 2018 年 1 ~ 2 月

子ども食堂の運営状況









1. ネットワークに加入した理由

①最も大きな理由

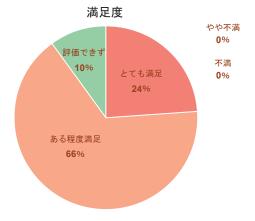
フードバンクや他からの食材の情報が得られる	6
子ども食堂どうしの横のつながりがもてる	5
困っていることを話し合える	4
立ち上げにあたってのアドバイス	2
企業からの情報	1

②加入した理由 複数回答

子ども食堂どうしの横のつながりがもてる	10
困っていることを話し合える	10
食材の情報が得られる	10
助成金や保険などの情報が得られる	7
ネットワークを通じて活動をアピールできる	6
_{亍政からの情報が得られる}	4
企業からの情報が得られる	4
立ち上げのアドバイス	2
その他	

(情報と運営にかかわる問題の共有化。活動継続の 支援。他との行き来。他の期間に勧められた。市民 の自発的な活動を応援したい。) 7

2. 加入しての満足度



理由(主なもの)

①満足と回答した理由

- ・既に開設されている方の話が聞けること。参加者 とのつながりが持てること。相談先があること。
- ・県下の各団体の状況把握により、自所への反映に 満足している。これから立ち上げるところへ助言 でき、役に立てる。
- 情報交換ができた。
- ・他の活動もよくわかり、自分たちの活動にプラスできる。アイディアももらえるので、向上していける勇気をもらっている。
- ・他市の様子を知ることができた。

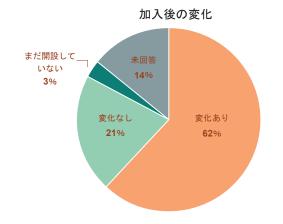
②ある程度満足と回答した理由

- ・なかなか参加できていないのだが、いろいろな情報提供があり参考になり、役立っている。
- ・みなさん、活動の良かった部分は話されるが、問題点 等あまり現状を正確に知ることができないから。
- ・参加している皆さんが何でも積極的に話してくれ て参考にすることができた。
- ・子ども食堂も次第に増え、それぞれ試行錯誤しな がら運営されていることを知り、前向きになれる。
- ・思うように会議などに参加できないため。議事録 を送ってもらって助かる。
- ・他の食堂の開催方法や様子が聞けて良いが、各々 の問題点の違いから解決策を見いだせずにいる。
- ・他の食堂の状況を聞く中で、今後の活動のヒント が得られたり、励まされたり、同じ思いの人がい るだけでも心強い。

③評価できずと回答した理由

- ・1回しか参加していないのでわからない。
- 特に評価の観点がわからない。

3. 加入後に子ども食堂の運営に変化があったか。



変化の内容 (主なもの)

- ・いろんな団体が各地で頑張っているのを見て、モ チベーションが上がる。スタッフが他の団体の活 動の様子を知ることができている。
- ・情報を共有することができ、参考になる。
- ・セミナー等の情報が得られる。必要な情報が届く。
- ・当子ども食堂主催のイベントの発信をしてもらえ ることにより、エリアの拡大が可能になった。
- ・運営していくイメージがつかめた。立ち上げまでに必要なことがわかり、スムーズに動けた。
- ・企業からいろいろな助成金があることを知ることができた。
- ・食材の提供があった。(大手企業、他団体から)
- ・他団体からの問い合わせがあった。

変化がない理由

- ・参加回数が少ないので、判断できない。
- ・運営自体に詳しい情報をえられなかった。
- ・実践それぞれの個別性が高いので。

4. 今後のネットワークに期待すること(主なもの)

- 情報交換
- ・課題に対応するための勉強会、研修会
- ・テーマを定めてグループディスカッション
- ・スタッフ不足、こどもへの対応など、より深く話 合える場となってほしい。
- ・皆さんと仲良くなれたらと思う。交流。
- ・各こども食堂の特色が他の子ども食堂へ活用にな ればよい。
- ・行政へのアクション(連携)の強化
- ・子どもの実情を学びながら、私たちの活動がニーズに合ったものになっていくよう、情報交換しながら学びの場になっていければと思う。
- ・情報と運営にかかわる問題の共有化
- ・他の食堂との関係がもっと密になればよい。情報 交換、食材のやりとりなどができればよい。
- ・他の地域にも同じようなネットワークがあれば、 全国的に情報を共有していきたい。
- ・農家、農作物など生産者側の話も聞いてみたい。
- イベントの開催

5. ネットワーク会議について

①開催日および場所

開催頻度は現状でよいとの意見が多かったが、開催日時や場所については、時間的・距離的に難しいという意見もあった。

②取り上げてほしいテーマ

- ・NPO 他のメリット、デメリット
- ・子ども食堂の交流。他の地域の子どもたちの状況 を共有して、課題を解決する。子ども食堂の具体 的なケースの紹介。
- ・食中毒等衛生面について。
- ・企業との協働
- ・子ども食堂のこれから
- ・教育機関との連携
- ・子どもの貧困にどのようにかかわっているのか。

6. グループメールについて

・事務局からの情報発信にはおおむねみんな満足しているが、子ども食堂間でのやり取りは、まだ相手の環境がわからない、付き合いが浅い等の理由で活用されていないことがわかった。

	事務局からの 情報提供	子ども食堂間での 情報交換
とても満足	15	4
ある程度満足	10	14
やや不満	0	1
不満	0	0
未回答	4	10

7. 事務局の対応について(主な意見)

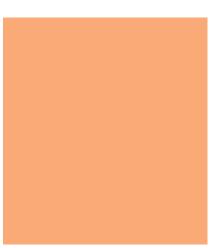
- ・大きなネットワークを作ってくださり感謝している。
- ・メールで他の動きを感じることができてありがたい。
- 迅速な対応ありがとうございます。

8. 今後のネットワーク運営についての意見、提言(主なもの)

- ・運営母体を持たない有志の集まりのため、連絡や やり取りがスムーズに行えない。各個メンバーが フェイスブックなどで直接情報に接することがで きるよう検討してほしい。
- ・個々の食堂ごとにコンセプトも違うので、ひとま とめは難しいかもしれないが、少しでも自分たち のおもいが共有できる方々とこれからもつながっ ていければと思う。
- ・ 先の長い活動だと考えている。できることをできる人が、みなで協力し合って支えるネットワークだと思う。
- ・他の子ども食堂の様子の映像が見られるとよい。









兵庫こども食堂ネットワーク 会則

第1条 (会の目的および活動内容)

兵庫県(南部)で開設している子ども食堂が互いに連携し、情報、ノウハウを共有しながら切磋琢磨し、子ども食堂の継続、発展につなげることを目的とする。年数回の頻度で、ネットワーク会議を開催し、一同に会して情報交換、話し合いの機会を設け、互いの連携を深め、個々の子ども食堂の運営に役立てる。グループメールに登録し、随時、子ども食堂に関わる様々な情報交換を行う。

第2条 (会の名称)

本会の名称を「兵庫こども食堂ネットワーク」とする。

第3条 (会員)

1)原則として兵庫県(南部)に開設している子ども食堂または開設準備中の子ども食堂運営団体であることを条件とする。

*子ども食堂とは、地域の子どもや保護者、地域住民に対して、無料または安価で食事を提供し、子どもたちの居場所、学習支援や様々な体験・交流の場として、地域とのつながりをつくることにより、子どもたちみんなが地域で健全に育つことを目的とした非営利の活動。

2)会員登録は、所定の参加申込書を事務局に提出する。 3)会員は退会届を提出し、任意に退会することができる。

第4条 (役員)

この会に以下の役員をおく

代表 1名 (子ども食堂運営団体)

副代表 1~2名 (子ども食堂運営団体)

会計 1名 (子ども食堂運営団体)

代表、副代表、会計は、会員の互選により選出し、 任期は1年とする。ただし、再任は妨げない。

第5条 (職務)

代表:会を代表し、運営を統括する。

副代表:代表を補佐する。代表不在の際、その職務を代行する。

会計:会の入出金を管理する。

第6条 (運営)

会の活動内容については、ネットワーク会議において話し合い決定する。

事前に協議事項をグループメールで周知し、会議終了後、協議の内容、決定事項をグループメールで報告する。 ネットワーク会議に参加できない団体は、メールに て意見を表明することができる。

重要事項については、出席者および出席できない会員のメール等での意見表明を合わせて過半数の同意をもって決定する。

第7条 (事務局)

会の運営にあたり庶務を担当する事務局を置く。

第8条 (会計・会費)

現時点では会費および入会金は徴収しない。 ただし、 必要が生じた時点で会則を改正し、 徴収するものとする。

第9条 (個人情報の取扱い)

会員情報のうち個人に係る情報については、会員 間のみで活用可とし、本ネットワーク活動に関する こと以外で使用しないものとする。

付則

- 1 本会則の改正は、会員の過半数の同意をもって行うことができる。
- 2 この会則は2019年4月1日から適用する。



フードバンク関西は、ジョンソンエンドジョンソン社会貢献委員会の助成を受けて活動 しています。

法人概要

設立 2003年 4月 任意団体フードバンク関西として活動開始

2004年 1月 兵庫県から特定非営利活動法人の認証取得 法務局に法人登記

2007 年 11月 国税庁から認定 NPO 法人の認定取得

2013 年 12 月 所轄庁の変更に伴い兵庫県から認定 NPO 法人の認定継続取得

2018 年 12 月 神戸市から認定 NPO 法人の認定継続取得

所在地 〒 658-0021 神戸市東灘区深江本町 1 丁目 8-16-101

電話番号 078-855-7025 FAX 078-855-7028

メールアドレス info@foodbankkansai.org ホームページ https://foodbankkansai.org/

役員 代表理事 浅葉めぐみ 他 理事 8 人 監事 1 人

フードバンク関西 検索

facebook もやってます!!

COPYRIGHT@2019 FOODBANK KANSAI ALL RIGHTS RESERVED.

認定特定非営利活動法人フードバンク関西 子ども食堂支援プロジェクト 2019 年 3 月発行発行責任者:浅葉めぐみ 編集:中島真紀・加美智一 デザイン:井神朱眸